課題番号８

ミニトマトの安定生産

～　新規品種導入で小玉率を低下させ単価をアップ　～

対象：ＪＡ夕張市ミニトマト部会（40戸）

１　活動の背景

夕張メロンに次ぐ生産品目であるミニトマトは、メロン栽培終了後の夏秋期の仕事確保という面でも重要な品目であるが、栽培年数が浅く栽培方法が確立されていない。また、定植時期が遅く夏秋期の収穫となるため、生産が不安定で小玉率が高いことが問題となっている。小玉率を低下させ、単価を向上させるために活動を行った。

２　活動の経過

１．役員会で活動計画を協議

３月に生産部会役員と活動内容を協議し、新規の取組を計画した。

①新品種の導入を検討するための比較試験ほの設置
②肥培管理の改善と摘果実施の啓蒙
③栽培技術平準化のための現地研修会の開催

２．情報発信

FAX情報を２回発信し、遮光資材の設置、追肥量、摘果、病害虫防除について情報提供した。

３．品種比較試験ほ設置

従来栽培されている「キャロル10」と、着果数が少なく大玉になりやすい「キャロルムーン」を比較試験した。

４．現地研修会の実施

昨年から２回目の開催となる夏期現地研修会を実施した。

高温対策、かん水・肥培管理等基本技術の確認を行うとともに、摘果方法の実演や品種比較試験ほの見学を行った。

また、従来品種と試験品種の食味試験も行った。

５．栽培講習会の実施

栽培講習会を実施し、高温対策に向けた栽培管理方法や品種比較試験結果の説明を行った。

３　活動実績の具体的内容

１．情報発信

FAX情報の発信により、遮光資材の適期設置、追肥・摘果の実施、病害虫の早期防除につながった。

２．品種比較試験の実施

品種比較試験の結果、試験品種の「キャロルムーン」の特性がわかり、導入判断の参考となった。

表１．株当たり総着果数、平均推計１果重、収穫花房数、推計収量

ほ場	品種	株当たり総着果数（個）	平均推計１果重（g）	収穫花房数	株当たり推計総収量（kg）
A	キャロルムーン	427	16.6	17.0	6.9
	キャロル10	371	10.9	17.3	4.0
B	キャロルムーン	185	14.0	9.0	2.6
	キャロル10	216	10.3	8.7	2.1

試験品種の「キャロルムーン」は、大玉で収量性に優れる

試験品種「キャロルムーン」の食味は、従来品種に劣る

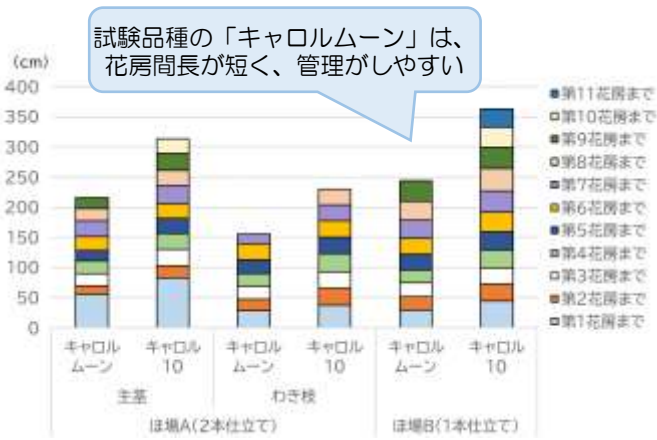

図１．花房間長

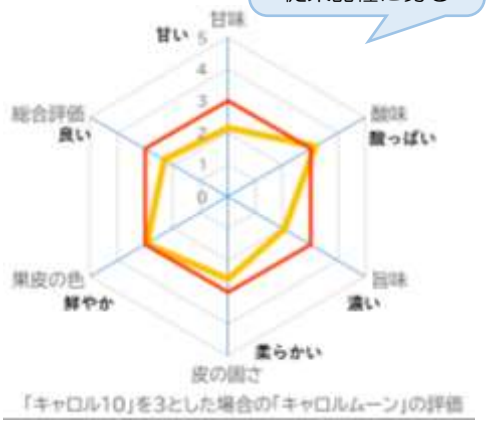

図２．食味試験結果

３．現地研修会・栽培講習会の実施

現地研修会では、実際に品種比較試験ほ場を見てもらい、食味試験を行ったことで、試験品種への理解が深まった。

また、摘果や摘葉について、実物を用いてやり方を説明したことで理解が深まった。

栽培講習会では、高温期のかん水・肥培管理等栽培管理について改めて確認できた。

品種比較試験結果の説明を行ったことで、新品種導入への議論が深まった。

具体的推進事項：生産安定の取り組み

Ｓ以上出荷率の向上

(現状91.8%→目標93%→実績90.6%)到達度97%

今年度は、夏期が高温に推移したことから実績は目標に届かなかった。

４　今後の課題と対応

１．新品種の導入について生産部会・JAとともに検討を継続する（仮）

２．引き続き、適期栽培管理や早期病害虫防除の徹底を情報提供する。